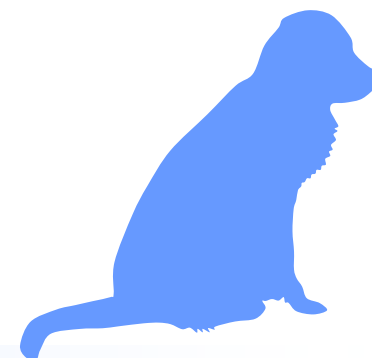


支援を必要とする妊婦

：今、産婦人科の現場で最も知りたい話題



令和5年12月1日（金）

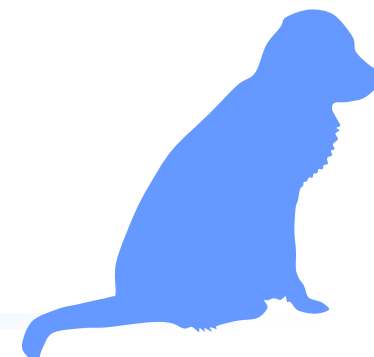
獨協医科大学病院

地域連携・患者サポートセンター 医療福祉相談部門

医療ソーシャルワーカー 東野 怜奈



自己紹介



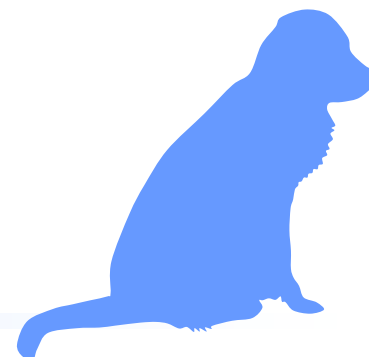
職種：医療ソーシャルワーカー



病気やけが等で、生活にさまざまな
困りごとが生じた際に、相談を受け
社会福祉の立場から支援します。



「特定妊婦」？



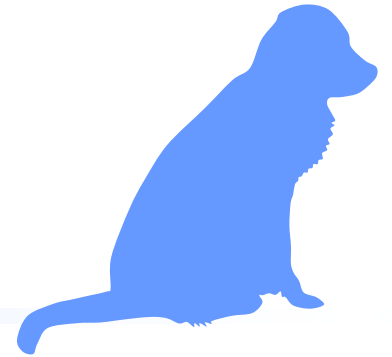
「出産後の養育について出産前において支援を行うことが特に必要とみとめられる妊婦」（児童福祉法）

◇ 妊娠・出産期の望ましい姿

「身体的にも精神的にも、最善の健康状態で育児に備えることが可能な状況／状態」



ハイリスク？特定妊婦？



“ハイリスク”＝身体医学的リスクのある妊婦

“**特定妊婦**”＝心理社会的・精神医学的リスクがあり、産後に養育困難に陥る可能性が高い妊婦

(社会的ハイリスク妊婦)

⇒ 妊娠中から関係構築し、産後を見据えた支援が必要。



特定妊婦の例



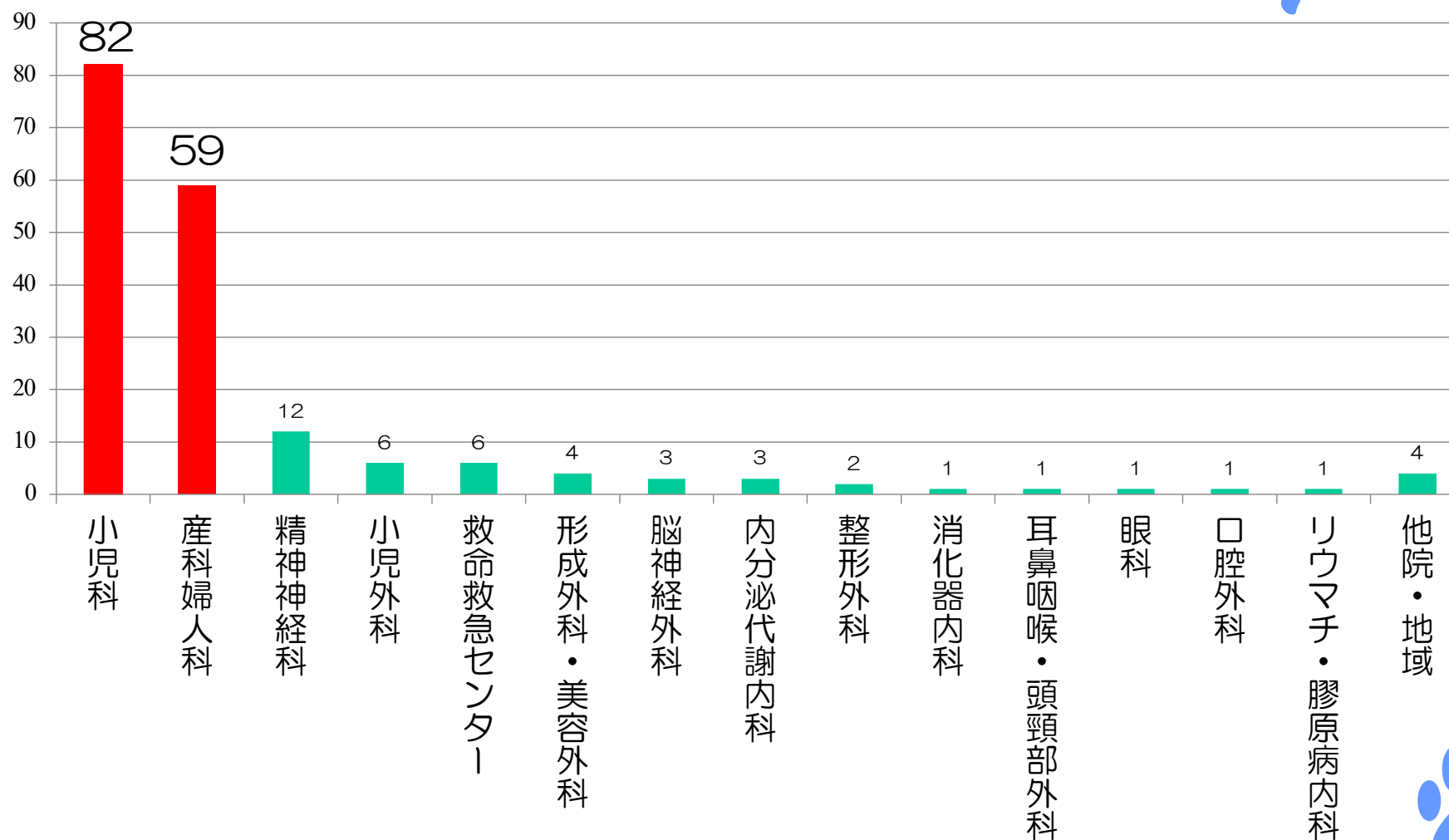
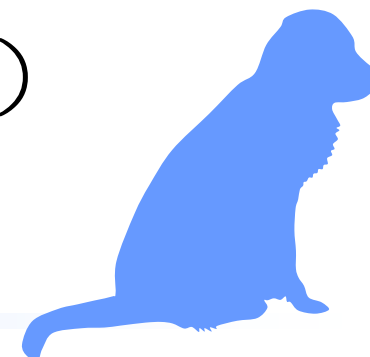
- (例)
- 収入基盤が安定しない
 - 家族構成が複雑
 - 親の知的・精神的障害などで育児困難が予測される

など



R4年度 虐待防止委員会 報告内容（抜粋）

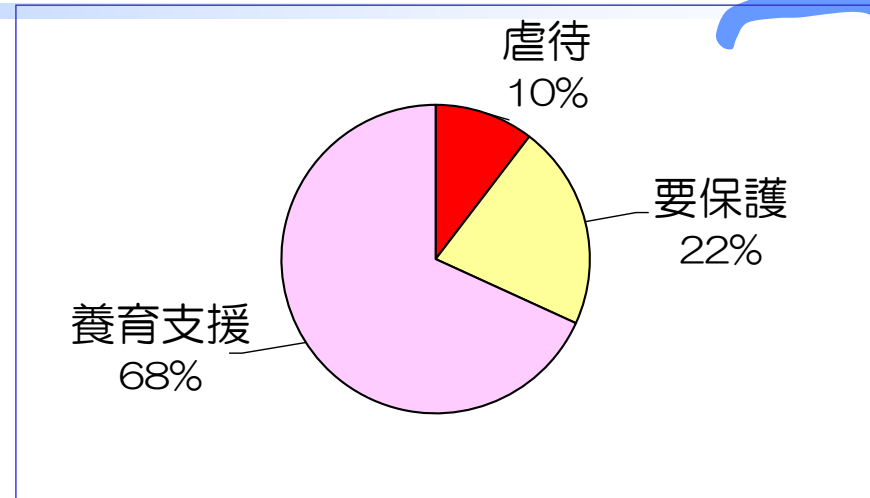
◇診療科別



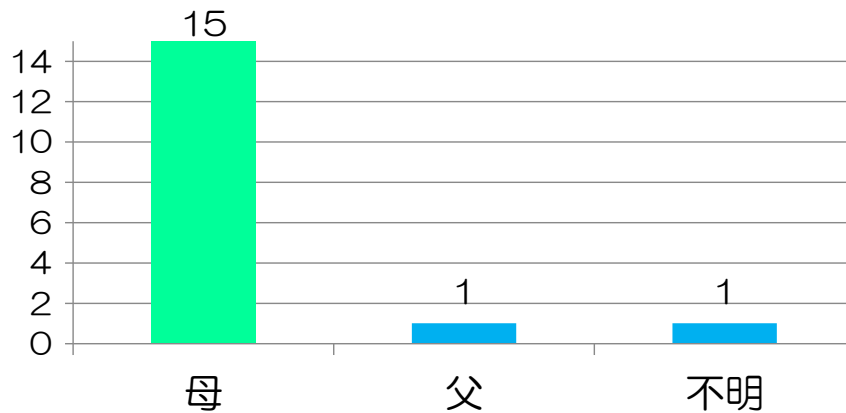
◇種類別

- 虐待：16ケース（身体的：2ケース、心理的：4ケース
ネグレクト：11ケース ※重複あり）

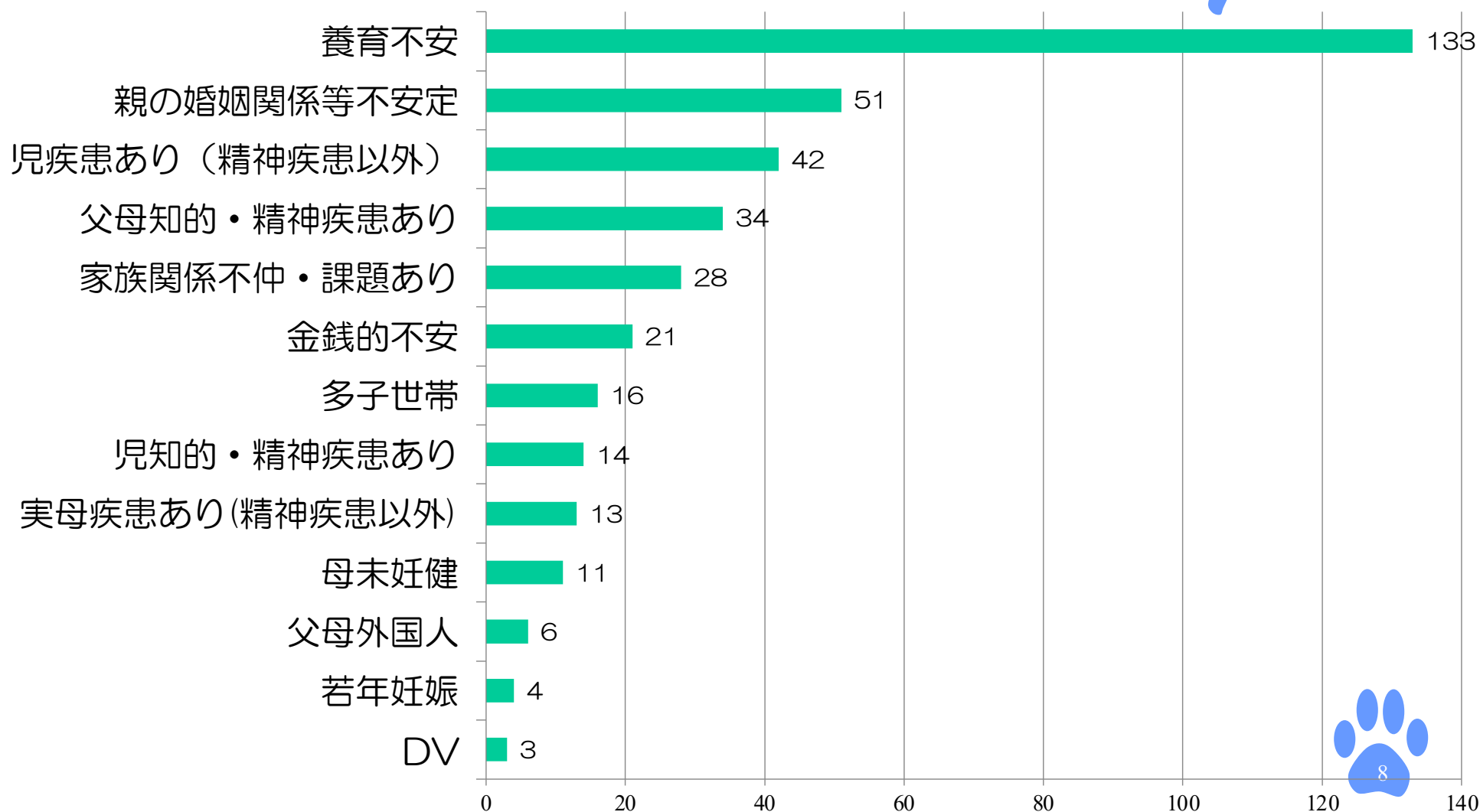
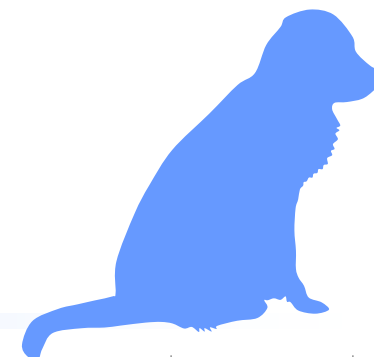
- 要保護：33ケース
- 養育支援：105ケース



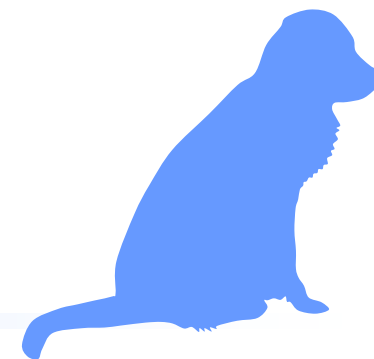
◎虐待者（重複あり）



◇ケースの抱える問題点



妊婦健診未受診のケースから

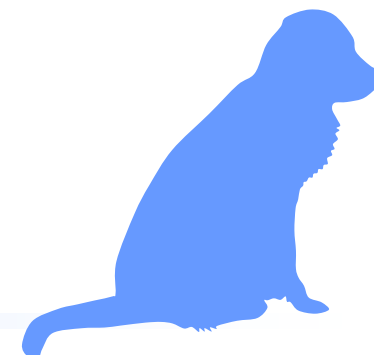


『妊婦健康診査未受診ケースから 見える課題』

※ 平成29年度栃木県医療社会事業協会 学会発表
(抜粋)

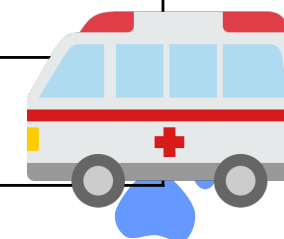


MSWの未妊健対応ケース (平成26年度～28年度)



「未妊健」：妊娠健康診査を1度も受けていない
妊娠確定に他院受診1回のみ
妊娠中期以降に当院初診 など

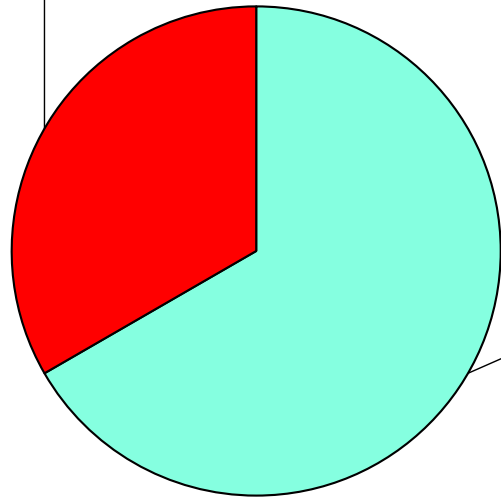
		(うち飛び込み出産)
平成26年度	7	1
平成27年度	8	5
平成28年度	9	4
合計	24	10



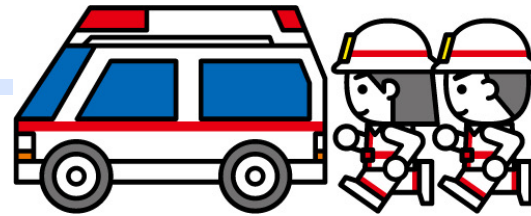
未妊健24ケースの内訳

〈夫やパートナーの有無〉

夫・パートナーなし 8
(33%)

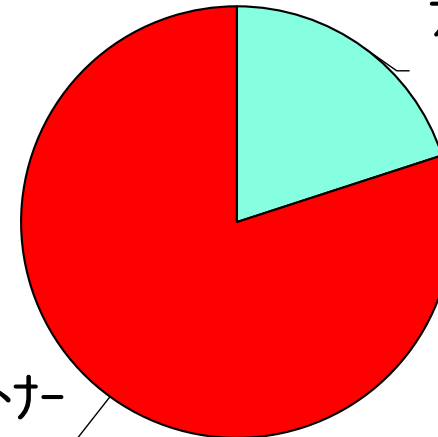


夫・
パート
ナー
あり
16,
(67%)



◆うち未妊健の 飛び込み出産

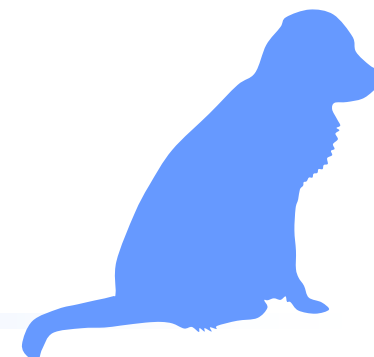
夫・パート
ナーあり, 2
(20%)



夫・パート
ナー
なし, 8
(80%)

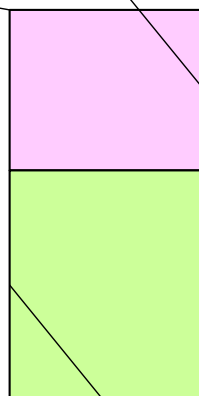
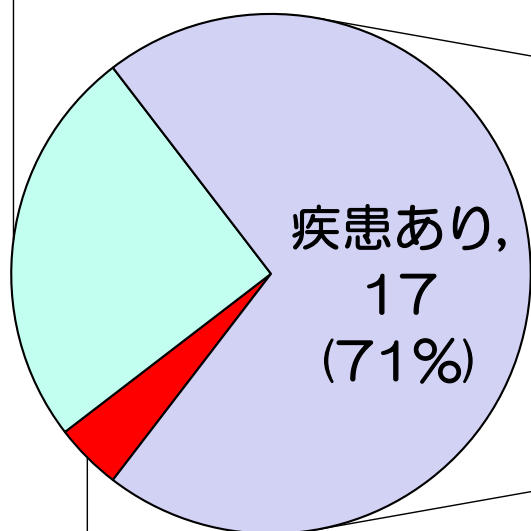


〈新生児の状態〉



問題なし
6
(25%)

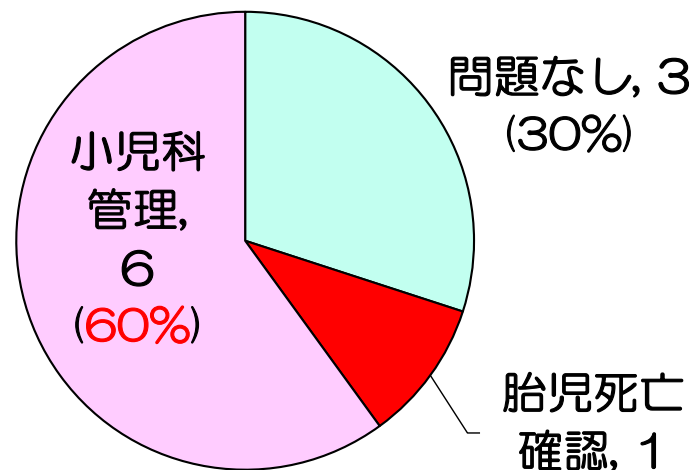
小児科
管理,
7



小児科入
院なし,
10

胎児死亡確認, 1
(4%)

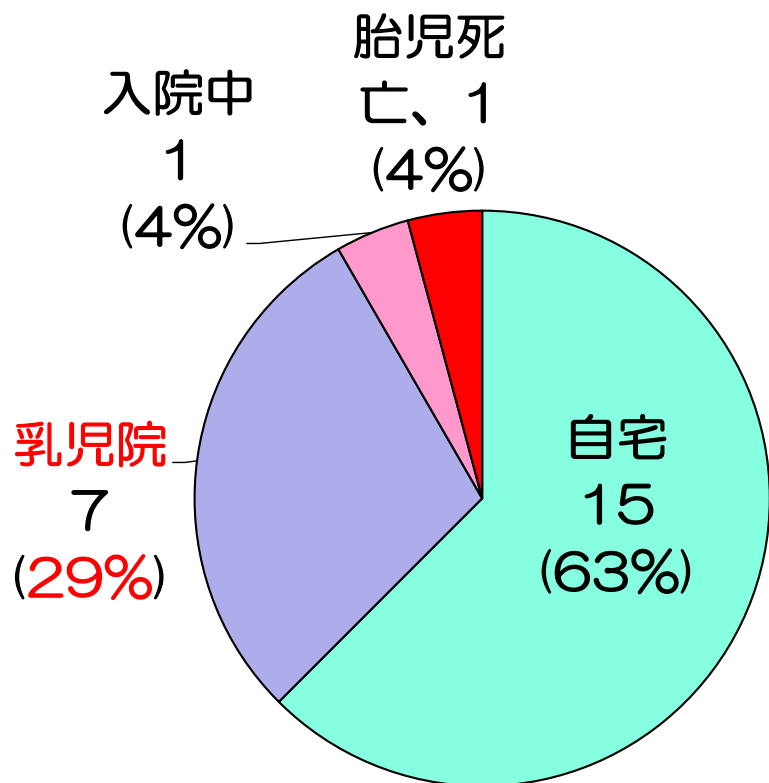
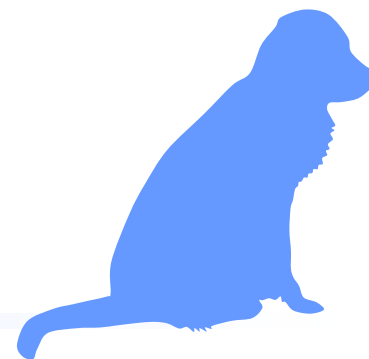
◆うち未妊健の 飛び込み出産



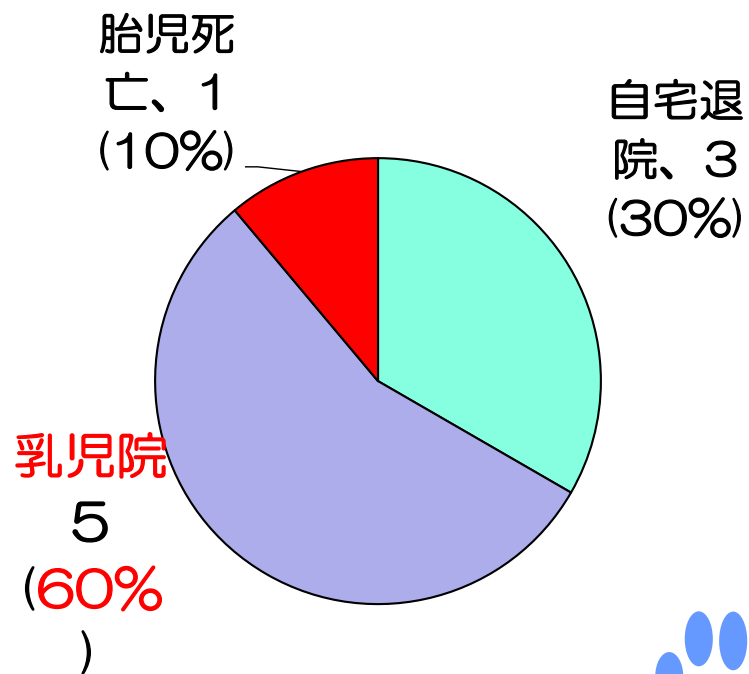
胎児死亡
確認, 1
(10%)



〈新生児の退院先〉



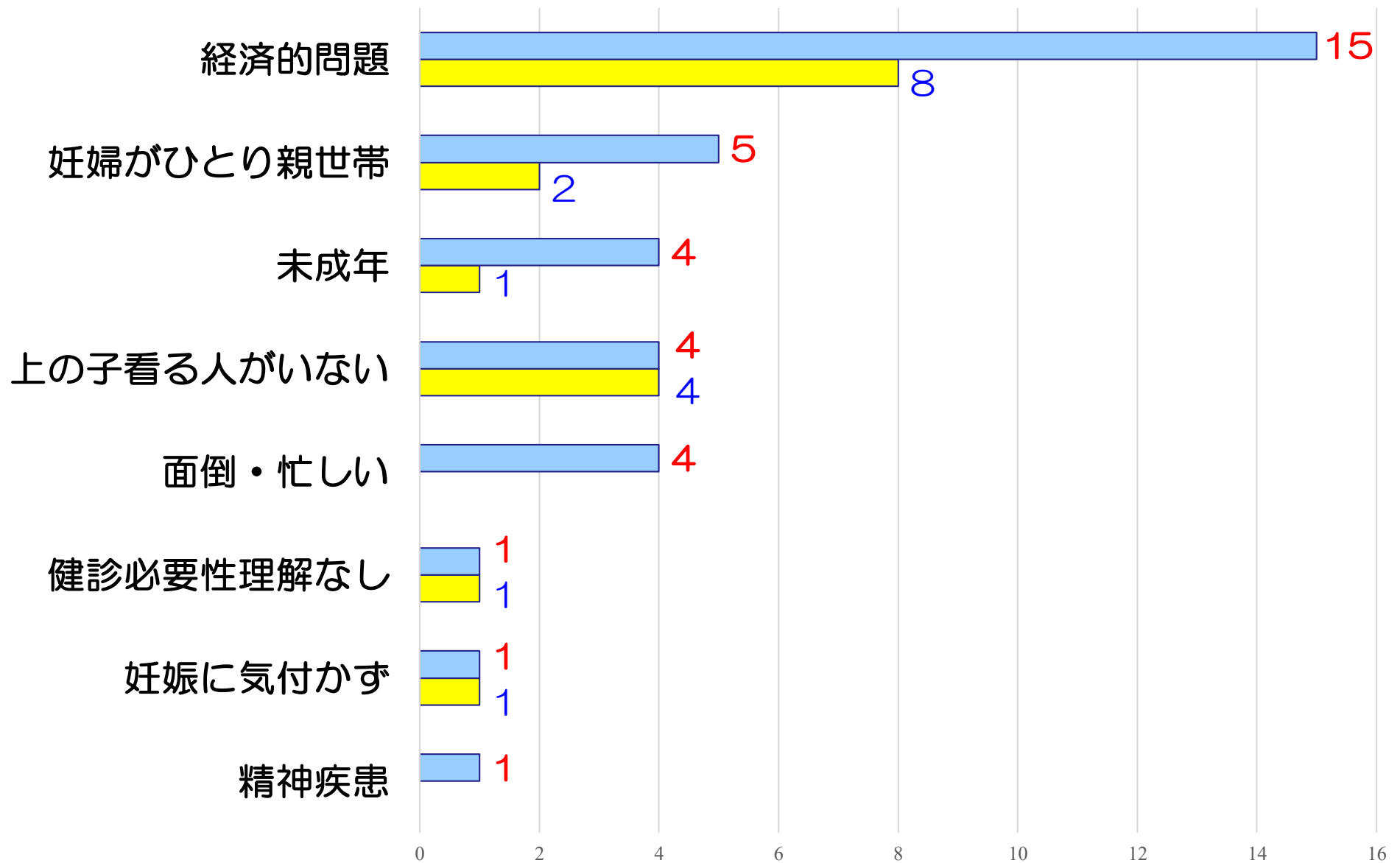
◆うち未妊健の飛び込み出産



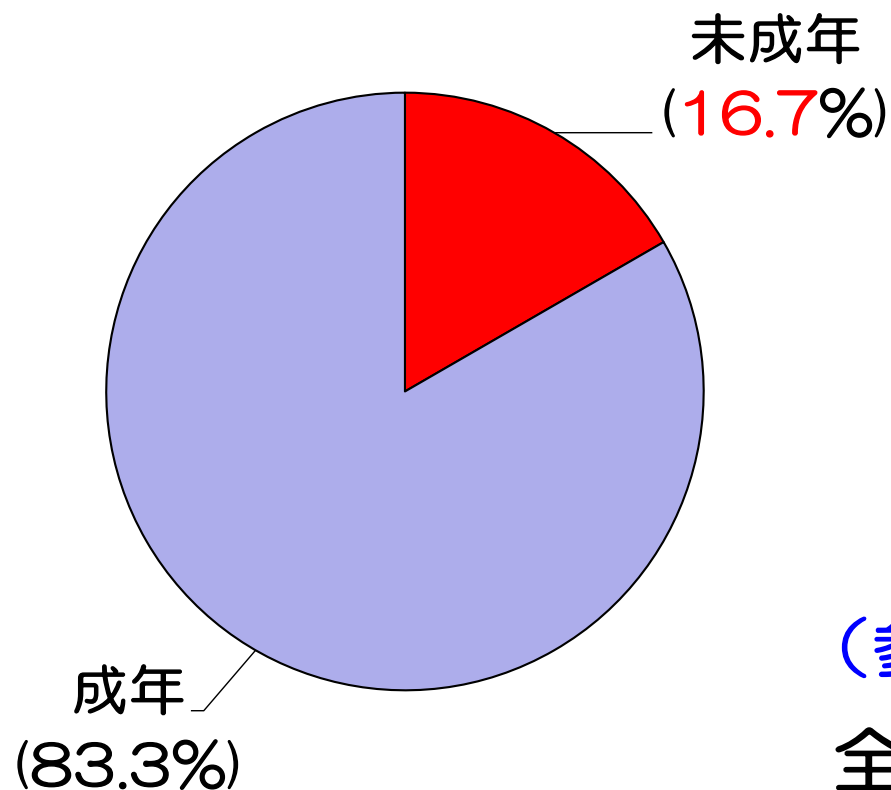
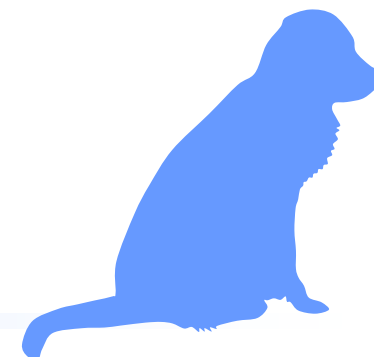


〈未妊健の要因〉

※重複あり／下(黄色)は飛込み出産ケース



〈未妊健の未成年の割合〉



(参考)

全妊婦の未成年の割合

○平成26年：1.3%

○平成27年：1.2%



◇未妊健や飛び込み出産の要因



○最も多いのは「経済的問題」

…背景には「未婚」「協力してくれる親や
親戚がない」

→ 健診の必要性は理解している。
経済的基盤が脆弱。

○「上の子を看てくれる人がいない」

…夫(パートナー)、親に頼めない

→ 産科受診時に児を預けられず、
一時保育等の情報も持っていない。
(金銭的にも負担が困難)





○「未成年」妊娠

… “妊婦も学生、パートナーも学生” で、

「親に言えない」「妊娠とは思わなかった」。

→ 経済的にも受診困難。

健診の必要性の理解も低い。

○本人も周囲も「妊娠に気付かなかった」ことも。

… 「核家族化」「生理不順」「妊娠は自分に
起り得ない」「妊娠・避妊の理解がない」

→ 早期からの性教育、妊娠教育が必要。



MSWの未妊健対応ケース (令和2年度～4年度)



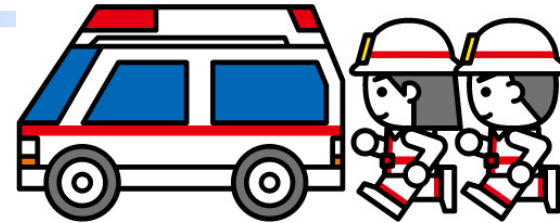
「未妊健」：妊娠健康診査を1度も受けていない
妊娠確定に他院受診1回のみ
妊娠中期以降に当院初診 など

		(うち飛び込み出産)
令和2年度	6	3
令和3年度	8	4
令和4年度	11	5
合計	25	12

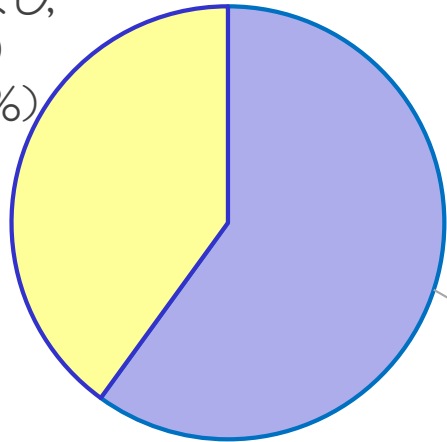


未妊健25ケースの内訳

〈夫やパートナーの有無〉



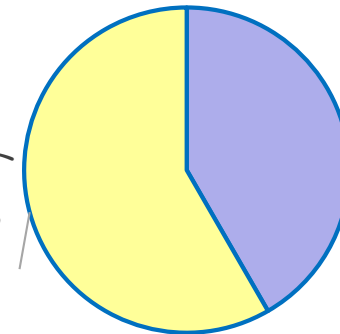
夫・パート
ナーなし,
10
(40%)



夫・パート
ナーあり,
15
(60%)

◇うち未妊健の 飛び込み出産

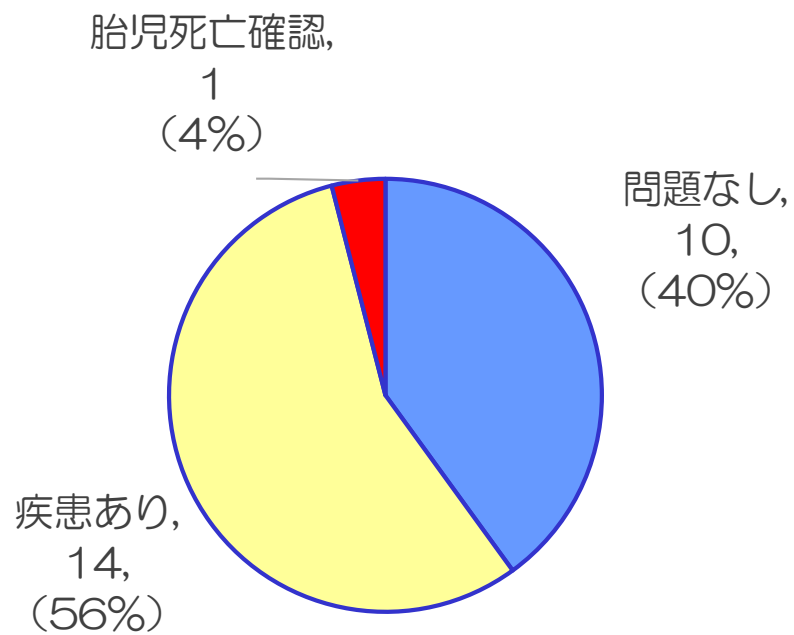
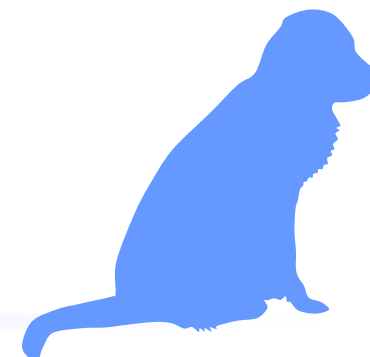
夫・パート
ナーなし,
7,
(58%)



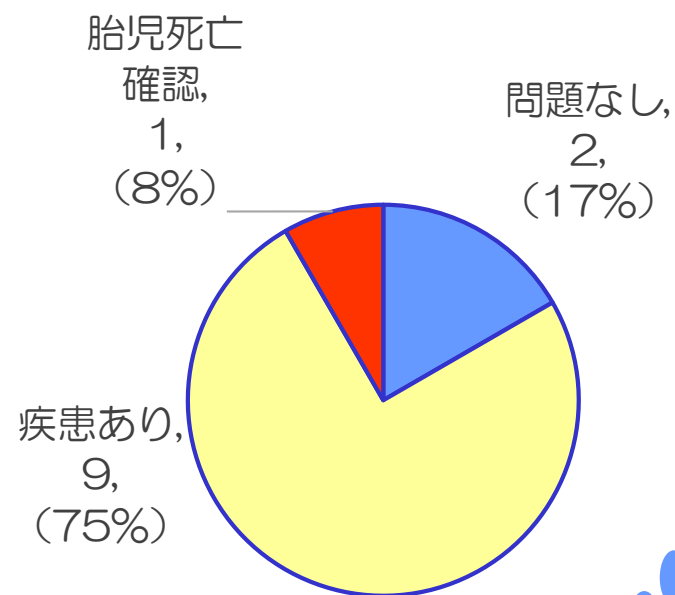
夫・パート
ナーあり,
5,
(42%)



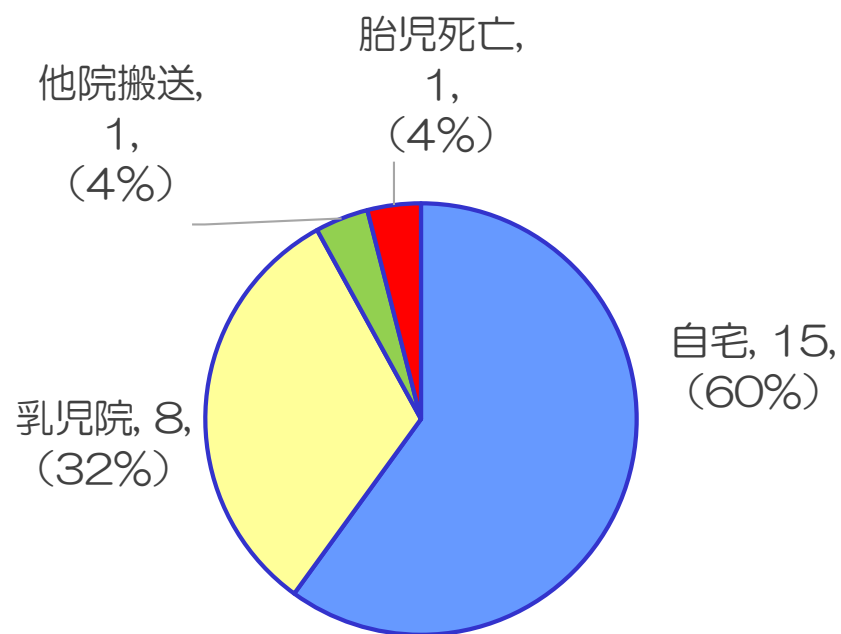
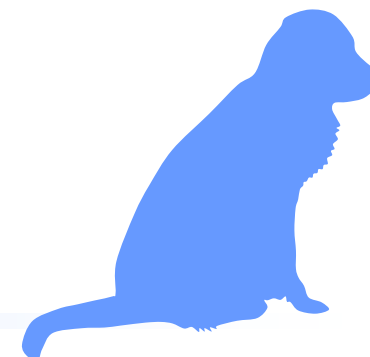
〈新生児の状態〉



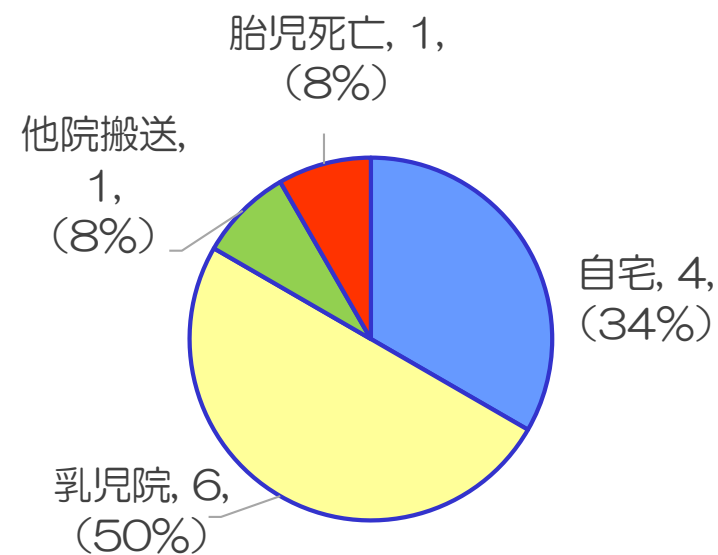
◇うち未妊健の 飛び込み出産



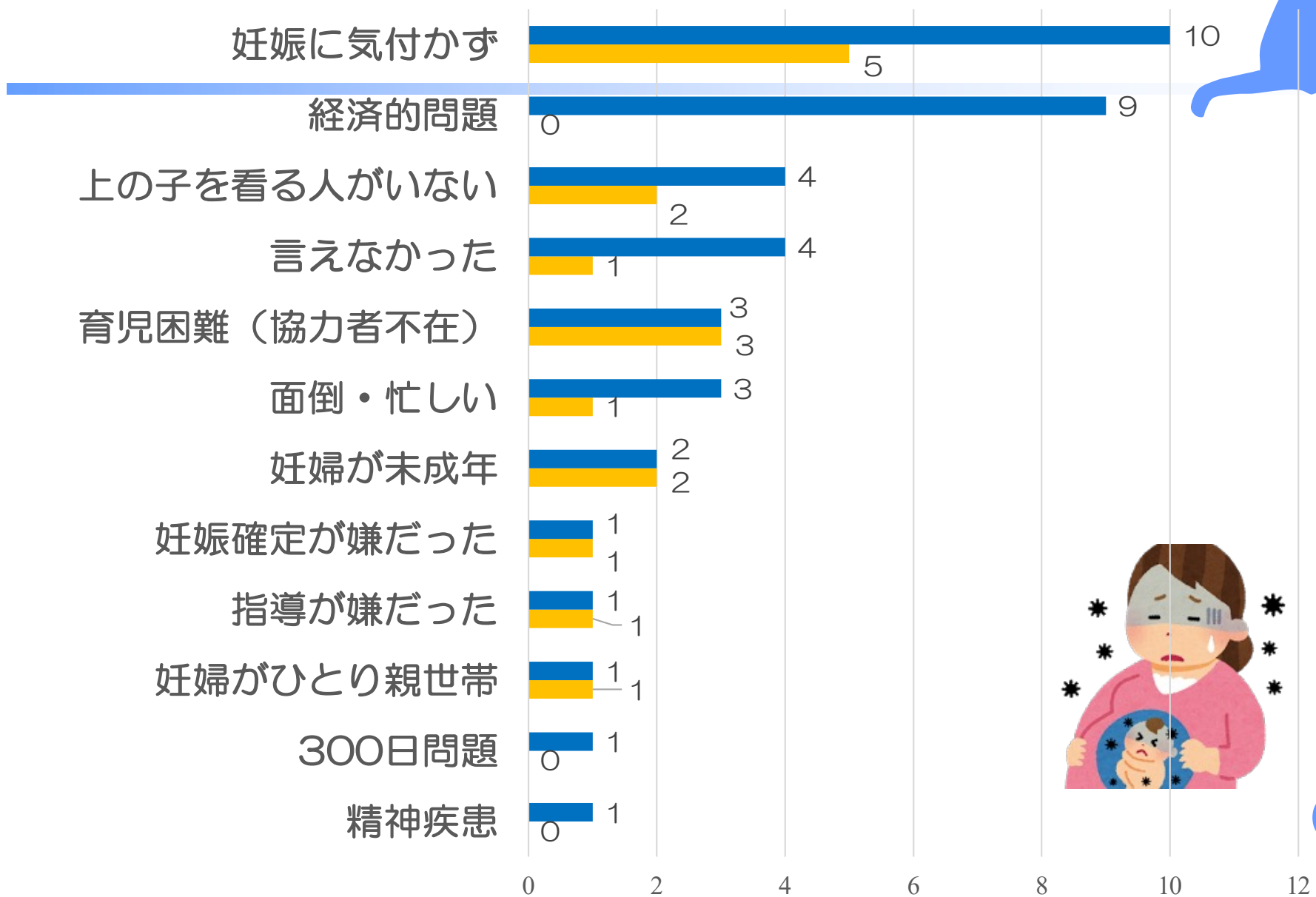
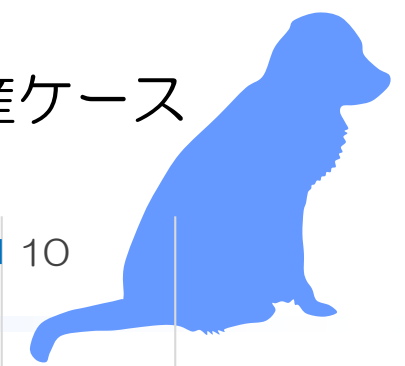
〈新生児の退院先〉



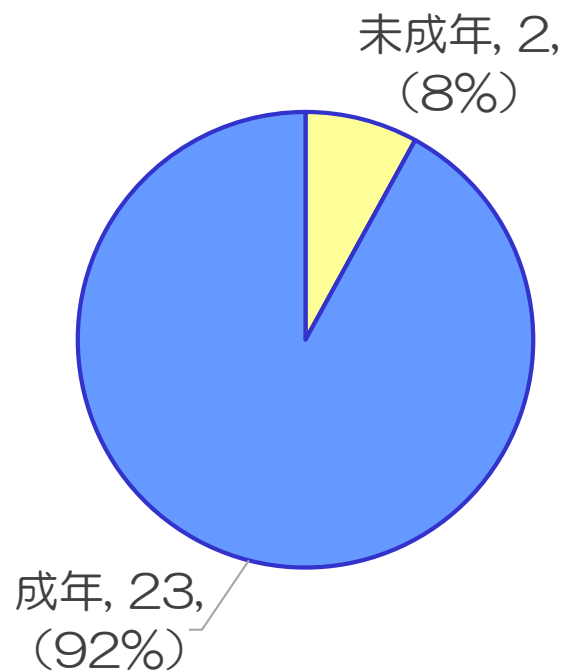
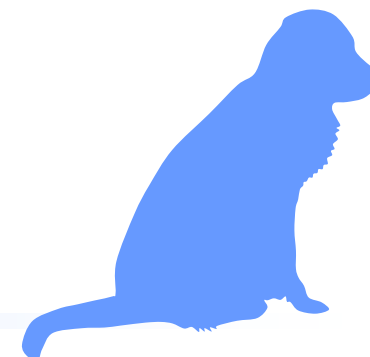
◇うち未妊健の 飛び込み出産



〈未妊健の要因〉 ※重複あり／下(黄色)は飛び込み出産ケース



〈未妊健の未成年の割合〉



(参考)

25ケース中、児の乳児院入所は

8ケース

うち飛び込み出産は7ケース

(87.5%)



◇未妊健や飛び込み出産の要因



○最も多いのは「妊娠に気付かず」

…10ケース中6ケースが“初産婦、未婚未入籍”

- 生理不順を理由に挙げることが多い。
同居家族がいても関係が希薄であったり、
経済的基盤が脆弱なことが目立った。

○次いで「経済的問題」

- …未婚・未入籍や、正職員ではない雇用形態で
仕事の休みが収入減につながることも多い。
→ 妊娠の予定がなかった、出産しても
育てられるのか不安があるケースも。





○「未成年」妊娠

… 妊婦が学生でパートナーも学生、
もしくは別れていて連絡先を消していたケースも。

「親に言えない」「妊娠とは思わなかった」。

→ 経済的にも受診困難。

検査薬購入の理解も薄かった。

早期からの性教育、妊娠教育が必要。

○家族・周囲が妊娠に気付かなかったケースも。

→ 上の子の時の繋がり方は？その後のフォローは？
相談先を知らない？

相談できない思いは何か。



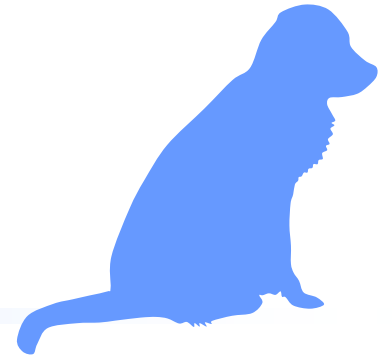
◇ 精神疾患合併妊娠



- “精神科のフォローが他院 → 妊娠に伴い**転医**”
…主治医が替わることのストレスに配慮必要
- 精神科を転医しない場合、情報の把握や共有が難しいこともある
- 家族が妊婦と児の受け止めと支援はどこまで可能か評価が必要。
- 妊婦本人が自身の疾患をどう理解しているか？



◇経済的困窮等のケース

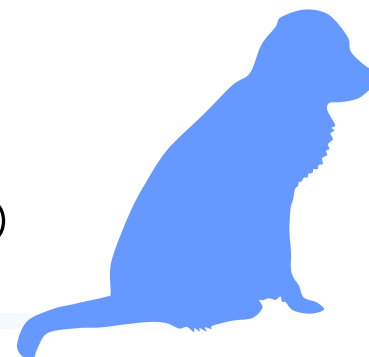


- 出産育児一時金の増額、新生児検査の助成
…そもそも知っている？
- 社会福祉協議会の自立相談支援事業や生活福祉資金の利用はしているか。場合によっては生活保護の申請も検討必要。
- 通院費用や出産後にかかる費用にも対応が必要。
(児が小児科管理となる場合は、さらに負担が増す)



◇若年妊娠

※未成年＝18歳未満（17歳まで）



- 妊婦が未成年の場合、妊婦の親権者が児の養育責任を負う。
 - …妊婦の親権者が養育意志があるか、養育が可能な状況か等の評価が必要。
- 妊婦自身の就学継続支援や就労支援も必要。



最後に



- 特定妊婦は、早期に多職種多機関で情報共有し、多角的な支援が必要。
- 院外との調整や金銭的な支援はSWの得意とするところ（なはず）。SWは皆さまの「困った」を放置できない職種（なはず）。

“全て何とか出来る”とは言えませんが、
「？」と思うことは、遠慮なくSWにご連絡ください。





ご清聴、ありがとうございました。

